

第1回神戸市歯科口腔保健推進懇話会 議事要旨

1. 日時：平成29年3月29日（水）14時～16時
2. 場所：三宮研修センター

委員) 神戸市の虫歯は**全国の目標数値を下回って良い**結果である。これは歯科衛生士会や歯科技工士会や三師会が連携している成果である。今後とも市民全体で関心を持って取り組んでいくことが大事。

委員) 来年度から**兵庫県衛生士会の神戸支部**となりその下に9区の担当をおくので、各区の歯科医師会と連携していく。歯科衛生士は人材不足で地域活動の確保が難しいが、障害者施設や休日診療など歴史的に長く協力させていただいている。今後も行政と歯科医師会その他関係団体とともに尽力していきたい。

委員) 歯科医師会、歯科衛生士会、市の3者が協力して切れ目のないライフステージで取り組みをしっかりとされている。関西の他都市ではあまりない。

若者、壮年期はアプローチ難しい。**職域には積極的にアプローチ**しているのか。

事務局) 職域保健の実務者会では来た人には伝えているが、その他の企業にはまだ直接伝えていない。

委員) **市民へ広報が届いていない**。プレミアムフライディを活用して、早く帰るなら、うまくつなげないか。今年は**開港150年**なので、全国への情報発信の機会。うまく取り組みできないか。

委員) 条例は理念に過ぎず、仏像でいえば仏の中に魂をいれなければいけない。熊本地震を契機に**DHEAT**ができた。この取り組みに歯科が入っているのか。

事務局) 近畿と国でDHEATの研修があったが、どちらも歯科の肺炎予防までは入っていない。今後の歯科口腔保健のニーズをとらまえて検討したい。

委員) **長田区**は3歳児健診でのフッ化物塗布が高いが、う蝕有病者率が高いのはなぜか、平成26、25年はどうか。毎年、何か対策をしているか。

事務局) 長田区は市内ワースト1が続き、全国平均よりも悪かった。平成23年から、区を挙げて、区歯科医師会、常盤大学短期大学部など**歯科関係者とともに歯科啓発に取り組んだ**。まず地域の実情を分析するため、平成23年度にアンケート調査をしたところ、食習慣ではおやつ回数が多く、仕上げ磨きをしないなど、**生活習慣が市内で一番悪かった**。チラシで啓発したところ、平成26年度にはワースト1から脱出したが、すぐ戻ったので、平成28年度は**妊婦への対策を強化**している。

委員) 長田区がワーストから抜けて**兵庫区**がワースト1になった。検診の時にフッ化物塗布をするが、後の継続がないので、う蝕が多い。中央・兵庫・長田は結核も多く、いろいろな問題があり、健康への取り組みへの関心が少ない人が多い。その世代の全部（児童・生徒）を把握してきているのは学校歯科医である。**学校歯科でしっかり教育**を行えばその後の理解度が上がると思う。教育に戦略的に目を向ければいいのか。

委員) 社会的弱者の視点は大事。**貧困の問題にも対応できる視点が要**。相対的な貧困率は全国で15～6%、つまり6世帯に1世帯は貧困。家計が苦しいと親は我慢しろといい、子供も我慢するようになる。

小学校に上がる前に就学援助制度がある。例えば、校医は学校から情報もらって、就学援助金をもらっている生徒を丹念に診てもらったらいいのではないか。虫歯の子＝援助要ということがわかれば、その親に啓発する方法も考えられる。掴み方は広げることができる。

事務局) 平成 29 年度から**健康創造都市 K O B E**を全市で進める。そうすると志の高い人と低い人の差が広がるので、その格差対策をWHOと協力して取り組んでいく。

委員) **周術期の取組み**が記載されているが、当院では口腔ケアが浸透していてクリニカルパスにのっとり自動的に受診するようになっている。しかしながら、人的、物的制約から心臓血管外科、消化器外科、血液内科などの手術時に絞っている。健康に関心のない人の口の中はひどい状況である。手術時に歯が折れて誤嚥とかの事例がある。入院を決めたときに、県や市の歯科医師会と、**歯科医院名簿にもとづいて紹介するシステム**を構築したいので、ご協力をお願いしたい。

委員) 子どもの頃の歯科健診時に自分の歯をほめてもらった。歯科衛生士にもほめられ、以来 4 ヶ月に 1 回は定期健診を受けている。80 歳になっても 28 本の歯を残したい。現在、成人している 3 人の子どもがいる。小学校まで寝かせ磨きしていたが、**高校生になると目が行き届かない**。

平成 27 年の**ポータルライナーの啓発**や**地下鉄の「かかりつけ歯科医」**動画も見たことない。**花時計も知らない**。

私立幼稚園でフッ化物洗口が少ないのはなぜか。

事務局) 幼稚園は 4 時間が生活の場。私立幼稚園はそれぞれ特色をもってやっている。97 園中 24 園がフッ化物のうがいに取り組んでおり、人数自体は 2,500 人いて、この取組みは年々増えている。

委員) 東灘区は教育熱心な親が多いので、きちんと歯磨きする習慣につながっている。自分は歯科検診はしていないが、「ひがしなだ健康くらぶ」を作って仲間を募り、よい健康習慣につなげていきたいと思っている。日中働いていると生活圏にないものは目に入らない。もっと身近なところで啓発してもらえば。

健康経営について区内のいくつかの企業と話をしたが、**企業の従業員だけではなく地域住民にも対象を広げてほしい**と思う。子ども食堂を見に行ったが、**子ども食堂と口腔対策をセット**でひろげればうまくいくのではないか。歯医者にはよっぽど痛くなければ行かない。歯医者は怖くない所という雰囲気をかもし出して、行きやすくなればいい。**歯科医院で本の貸し出し**をしたり (マイクロライブラリー)、診察のない日に交流の場として開放してもらえないか。

委員) 周術期や高齢者など、口のケアは大事。医師会との連携が大事だが、なかなか難しい。

「フレイル (虚弱)」という言葉は 2014 年 5 月に老年医学会が作った。**オーラルフレイルをまず早期発見して対策**をすることにより、フレイルになるのを防ぐことができればよい。歯科衛生士にオーラルフレイルの教育がどこまでできているかであるが、初期介入が大事である。是非取り組んでいただきたい。

委員) 今までは医療関係者でさえ口のケアの大切さを十分には理解していなかった部分もある。市歯科医師会より周術期の啓発ポスターをもらったので、神戸市医師会全員に配布する。三師会が集まる場所では話をしている。**医科歯科連携を強力に進めていきたい**。

在宅医療における口腔ケアは大事である。神戸市医師会の勉強会の講師を歯科医師会にお願いしている。耳鼻咽喉科と歯科の両方にまたがるため、これからも互いに連携してやっていく。